

令和6年度(2024年度) 第1回函館市社会教育委員の会議 会議録

1 日 時 令和6年(2024年)8月6日(火) 14時00分～16時00分

2 場 所 函館市役所8階第1会議室

3 内 容

(1) 議 事

正副委員長の選出について

(2) 報 告

ア 令和6年度(2024年度)社会教育事業概要について

イ 第44回北海道市町村社会教育委員長等研修会参加報告

(3) その他

情報交換 「各自の生涯学習や社会教育に関する活動等について」

4 会議資料

(1) 会議資料1 社会教育委員について

(2) 会議資料2 令和6年度(2024年度)社会教育事業概要

(3) 会議資料3 第44回北海道市町村社会教育委員長等研修会開催要項

(4) 配布資料1 座席表

(5) 配布資料2 令和6年度 市立函館博物館企画展

「北東アジアのシルクロードー北方交易と蝦夷錦ー」

(6) 配布資料3 函館市社会学級のご案内

(7) 配布資料4 令和6年度社会学級講演会

「お天気から見える函館の特徴・良さについて」

(8) 配布資料5 函館市女性会議 No. 37

5 出席委員 13名

池田孝道委員長, 外崎紅馬副委員長, 若林慎也委員, 中田和子委員  
花松均委員, 西澤勝郎委員, 鈴木利治委員, 佐々木香委員, 小泉  
亜希子委員, 佐藤裕美委員, 白井高秋委員, 中川祥子委員, 佐々木  
幸夏委員

6 欠席委員 2名

善本至委員, 坂本孝雄委員

7 事務局出席者 10名

土生明弘生涯学習部長, 宮田至生涯学習部次長, 長濱未亜生涯学習  
文化課長, 長尾久美子スポーツ振興課長, 岩井丈フルマラソン担当  
課長, 木村元子文化財課長, 加藤秀紀歴史文化資源保存活用担当  
課長, 熊谷正博物館長, 葛西暁子生涯学習文化課主査, 若狭佑介  
生涯学習文化課主事

## 8 発言要旨

葛西生涯学習  
文化課主査

### 1. 開会

ただいまから、令和6年度(2024年度)第1回函館市社会教育委員の会議を開会いたします。

まず、はじめに、委員の出席状況について報告いたします。

本日の委員の出席状況について、委員15名中13名のご出席をいただいております。函館市社会教育委員の会議規則第5条第1項の規定に定める過半数に達しておりますことから、会議が成立しておりますことをご報告いたします。

また、本年1月の函館市教育委員会傍聴人規則の改正に伴い、今回より傍聴人名簿を廃止し、傍聴人には傍聴章を着用していただくこととなりましたので、ご報告いたします。

土生生涯学習  
部長

### 2. 生涯学習部長あいさつ

—生涯学習部長 あいさつ—

葛西生涯学習  
文化課主査

### 3. 委員紹介

本日の会議は委員改選後、はじめての会議となっていることから、委員の皆様を紹介いたします。

—委員紹介—

長濱生涯学習  
文化課長

### 4. 事務局職員の紹介

次に、教育委員会事務局職員をご紹介いたします。

—事務局職員 紹介—

議事に入ります前に、生涯学習文化課長より、函館市社会教育委員の会議について説明いたします。

—会議資料1に基づき、社会教育委員について説明—

葛西生涯学習  
文化課主査

### 5. 議事

#### (1) 正副委員長の選出について

それでは、議事に移りますが、正副委員長は函館市社会教育委員の会議規則第2条において「会議に委員長及び副委員長にそれぞれ

1名を置き、社会教育委員の互選とする」と定められております。  
正副委員長の選出につきまして、皆さまの意見、いかがいたしましょうか。

佐々木香委員

事務局の意見を伺いたい。

葛西生涯学習  
文化課主査

事務局からは、函館市青年サークル協議会の理事を務められ、青年団体や若者に対する活動の支援、学習機会の提供を行うなど社会教育に造詣が深い、池田委員を委員長として提案いたします。  
池田委員、いかがでしょうか。

池田委員

ー承諾ー

葛西生涯学習  
文化課主査

委員の皆さまは、いかがでしょうか。

各委員

ー拍手にて承認ー

葛西生涯学習  
文化課主査

拍手多数のようなので、池田委員を委員長として選出いたします。  
それでは、池田委員長からあいさつをいただき、ここからの議事進行は池田委員長にお願いいたします。

池田委員長

ー委員長 あいさつー

それでは、副委員長の選出に移ります。  
副委員長には、前期においても副委員長を務められた北海道教育大学教授の外崎委員に、今期も副委員長をお願いしたいと考えております。外崎委員、いかがでしょうか。

外崎委員

ー承諾ー

池田委員長

委員の皆様、いかがでしょうか。

各委員

ー拍手にて承認ー

池田委員長

拍手多数のようですので、副委員長は外崎委員に決定します。  
副委員長から一言、ごあいさつをいただきます。

外崎副委員長

ー副委員長 あいさつー

池田委員長

正副委員長が決まりましたので、“議事（1）正副委員長の選出について”は以上で終了とします。

## 6. 報告

### (1) 令和6年度(2024年度)社会教育事業概要について

池田委員長

それでは、報告に入らせていただきます。

まず、報告(1) 令和6年度(2024年度)社会教育事業概要について、事務局より説明願います。

各課長

—次の順に、資料2に基づいて説明—

- ・ 生涯学習文化課
- ・ スポーツ振興課
- ・ フルマラソン担当
- ・ 文化財課
- ・ 歴史文化資源保存活用担当
- ・ 博物館
- ・ 各教育事務所(生涯学習文化課長)

池田委員長

ここまでの説明に関して何かございますか。

各委員

—意見なし—

池田委員長

特に無いようですので、報告(1)を終わりといたします。

ここで、スポーツ振興課長、フルマラソン担当課長、文化財課長、歴史文化資源保存活用担当課長、博物館長は退席いたします。

### (2) 第44回北海道市町村社会教育委員長等研修会参加報告

池田委員長

続きまして報告(2) 第44回北海道市町村社会教育委員長等研修会参加報告に移ります。

この研修会は、私と若狭主事が参加いたしました。

本研修会は北海道社会教育委員連絡協議会が主催する研修会で北海道内の社会教育委員長や社会教育関係者を対象に、毎年7月に開催されており、今回は北海道内119市町村から計194名の社会教育委員や行政関係者が参加しております。

内容といたしましては、東北福祉大学准教授の清水冬樹氏から、「子どもたちに選ばれる居場所～子どもの参加・意見表明権を踏まえて～」と題しまして基調講演をいただいたほか、翌日には、初日の講演を踏まえ、「子どもの居場所づくりと社会教育委員のかかわり」について話し合うグループワークも行われました。

それではまず、若狭主事から、基調講演について、報告をお願いします。

今回の研修会の基調講演では、講師の清水氏が旭川大学短期大学部に在籍していた際の経験や東北福祉大学で取り組まれている子どもの居場所づくりに関する取り組みなどの事例を交えながら、子どもたちが「ここが自分の居場所だ」と思える環境を作っていくためのアプローチ手法などについて、講演が行われました。

講演内容の要旨といたしましては、「地域における“子どもの居場所”を作っていく上で重要なことは、子どもの権利を尊重し、子どもを主体として、意見・思い・希望などを尊重した取り組みを行うことであり、子どもに学びや経験を強制したり、一方的な善意で支援を提供したりするのではなく、子どもが主体的に学べる環境を提供し、子どもの目線に立って支援することが、ここが自分の居場所だと子どもが思える環境を作ることに繋がる」といった内容のものでした。

また、貧困や家庭環境など困難を抱える子どもやその親に対し、支援・取り組みを実施していく上でのポイントとして、「困難を抱える子どもやその親が、現在抱える問題を『仕方のないことだ』と諦め『関係機関に相談する』という選択肢を放棄してしまっているケースがあることから、気軽に立ち寄り、話ができる居場所を地域内に形成していくことが課題の認識や把握において重要となること」

さらに、「困難を抱えた子どもに対する支援において、児童の抱えている問題を無理やり聞き出すのではなく、子どもから話してもらえ信頼関係を構築することが根本的な問題の解決に向けて重要なアプローチとなること」などのお話がありました。以上です。

グループワークにつきましては、私から説明いたします。

私が参加したグループは、釧路町社会教育委員長、滝上町社会教育委員副委員長、利尻富士町教育委員会社会教育係主事、歌志内市教育委員会の社会教育グループ主事と私の5名でした。

まずは、「子どもの居場所づくりの取り組み方について」意見を出し合う場が設けられましたが、子どもの居場所づくり以前の問題として、まさに子どもがいないという切実な声が多く聞かれました。

また、具体的な取り組みを行ううえで、近隣の大学生を巻き込むことが重要であり、教授も学生を地域に出して学びを得たいという気持ちをもっていることが多いため、大学にアプローチをして居場所づくりの取り組みを進めていくことをお勧めするとの意見もありました。

次に、「社会教育委員としての関わり方」について意見を出し合う場が設けられ、滝上町の事例として、社会教育委員の運営するゲストハウスを利用したお客様にコスプレイヤーの方がおり、まちでコスプレのイベントをしないかとの提案を受け、社会教育委員がまち

との懸け橋となり、毎年200名ほどの方が参加し、地域の子どもたちも楽しみにするまちを挙げてのイベントへと成長したとのことでした。

最後に、規模が異なる市町が集う分科会においては、函館市が参考とするには難しいと参加するたびに感じるところではありますが、北海道における社会教育の現状を知るには良い機会だと思っております。今回の基調講演では旭川市の事例があったことから、函館市においてもアプローチの仕方によっては良い結果が得られる可能性を感じることができました。函館市におけるまちづくりに活かしていく方法を考えていきたいと思っております。以上です。

池田委員長

研修会についての報告をさせていただきましたが、ここまでの説明に関し、意見や質問などございませんでしょうか。

各委員

－意見なし－

池田委員長

特に無いようですので、報告（2）を終わりいたします。

## 7. その他

### (1) 情報共有「各自の生涯学習や社会教育に関する活動等について」

池田委員長

続きまして、その他の情報共有に入ります。

各委員の皆さまには、お一人3分～5分程度で、委員が日頃、生涯学習や社会教育活動のほか、今、ご自身で組んでいるもの、取り組まれてきたことでも構いませんので、お話をいただきたいと思っております。

それでは最初の発表者ですが、初めに私からお話をさせていただき、その次は、外崎副委員長、続いて若林委員と座席の順に発表をお願いします。

それでは、発表に入ります。

池田委員長

私は青年センターという社会教育施設を運営しています。

私はセンター長という立場ですので、事業全体を見ることが重要な業務となっておりますが、自身が理系大学出身であることもあり、はこだて国際科学祭や青年センター独自の科学教室の開催などを担当しております。

事業の内容としましては、貸館の予約などを行っておりますが、ただ貸して終わりではなく、利用者アンケートの実施や親睦会の開催など、設備や接客に関する意見を聞くことで、より良い運営に努めているところです。

次に、我々で企画し実施している教養講座があります。

ヨガ教室や体幹トレーニングといった運動系の講座をはじめ、野菜ソムリエによる野菜教室・スイーツ教室などの料理系の講座、陶

芸教室などの芸術系の講座や子どもの自由研究に関する講座などを行っております。

これらの講座は全て、教育委員会で行っている“まなびっと広場”の対象講座となっており、広く市民の方に周知を行っているところです。

その他、サークル活動の発表の場となるイベントやサークル対抗のゲーム大会を開催するなど、交流を深めてもらう事業も多数行っております。詳しくは当センターのHPをご覧ください。

私からの発表は以上です。

外崎副委員長

私は昨年度まで、北海道教育大学付属函館幼稚園で園長を務めておりました。

その際に、園児に絵本の読み聞かせをする取り組みを始めたことから、大学の学生にその話をしたところ、絵本を使ってSDGsの理解・促進を図ることができるのではないかと提案があり、学生たちとSDGsの理解・促進に役立つ絵本を選書して、1冊につき1枚、絵本を紹介するパンフレットを作成いたしました。

SDGsにおける1つの目標につき5～7冊、計100冊程度の本を選書し、1冊につき1枚作成したパンフレットをまとめ、1つの冊子にいたしました。

冊子を作成しただけでは広まらないため、インスタグラムで1週間に1冊のペースで投稿を行ったところ、フォロワーも3,000人程度に増え、1投稿につき500～700いいねを貰えるくらいに見てもらえるようになったところでございます。

地域の読み聞かせグループや図書館、子ども食堂の運営団体など子どもの居場所づくりに取り組む方々に見てもらえている印象があります。

この取り組みは評判も良く、学生も楽しんで取り組んでおりますので、今後も続けていきたいと考えております。私からは以上です。

若林委員

現在私が勤務しております函館市立高丘小学校の取り組みを紹介いたします。

現在、本校では地域学校協同活動の充実を目指そうという取り組みを進めております。

数年後、数十年後を見据えた際に、持続可能な社会づくり・持続可能な学校づくりが必要不可欠だと考えております。そのためには地域の人的・物的資源を有効活用し、地域社会と連携・協同した教育活動を展開したいと考えております。

今年度の具体的な取り組みとしては大きく3点あり、1点目に「見守り・あいさつ運動」という取り組みを行っており、函館短期大学の学生や高丘町会の方々に週2回、登下校時に校門の前に立っていただき、子どもたちとのあいさつ運動を行っていただいております。

2点目は「サマースタディスクール」という取り組みです。これは、昨年度まで夏休みに学校が行っていた取り組みに高丘町会が行っていた寺子屋という取り組みを合体させ、教員OBや地域住民の協力を得て、学校と地域が協力して行っております。

3点目は「ボランティア活動」です。今年度は、9月20日の“ワールドクリーンアップデー”という世界各地で地球を一斉に清掃する日に合わせて、地域の方々と一緒にゴミ拾い活動を予定しております。

本年度は大まかに、これらの3点を予定しておりますが、学び・体験活動を充実することで、ふるさとに愛着と誇りを持つ子どもを育てたいという願いで取り組みを進めております。

私からは以上です。

中田委員

学校教育活動課程内での話になりますが、私の勤務しております函館市立旭岡中学校の活動について説明いたします。

資料2 社会教育事業にも記載がありましたが、青少年芸術教育奨励事業には本校からも生徒が応募しており、賞を貰った経験もあり、教員としても審査員としても関わる機会のある馴染み深い事業となっております。

また、文化芸術アウトリーチ事業については、本校でも和太鼓やお琴の授業を活用させていただいており、子どもたちも楽しみながら学んでいるところです。

その他にも、総合的な学習の時間において、社会福祉協議会の出前講座を活用し、手話や盲導犬、介護ロボットなど普段触れる機会のない分野について専門家から指導を受けることができ、生徒のいきいきと楽しそうに取り組む様子が見受けられました。

地域との繋がりという観点では、コロナ禍でしばらく中止していた職場体験学習が昨年度から再開となり、地域の方々に協力いただき、生徒が働くことの楽しさや厳しさを学ぶ貴重な機会となっております。

昨年度も紹介したのですが、本校のリコーダー部が4年連続で全国大会に出場し、合奏の部で金賞、重奏の部で銀賞を獲得しており、今年の3月に本校の体育館で1時間程度のミニコンサート兼全国大会壮行式を開催したところ、地域の小さな子から高齢者まで様々な年代の方々が、100名近くも集ってくださり、非常に盛況で高評価をいただきました。これは、学校が地域に学ばせていただくだけでなく、地域に学校の活動を還元する良い機会であったと考えております。

今後とも、様々な機会を通じ、社会との繋がりを大切にしていきたいと考えております。以上です。

花松委員

市立函館高等学校は、函館東高校と函館北高校が統合して18年

目になります。

開校当時より、函館の伝統や文化を学ぶ「函館学」という取り組みを独自に行っているほか、「地域探究学習」という取り組みでは、地域の方々や企業様にご協力いただき、地域の様々な活動に参加させていただいており、今後とも協力をいただきたいと思います。

現在、教育は学校教育だけでは抱えきれなくなっており、例えば、中学校では部活動の地域移行の話などが進んできていると思いますが、教育分野全体での大きな機運の中で、教育力を高めていくためにはどうしたらよいか、本校でも検討しなければならないことが出てくると考えております。

例えば、道南地区ではハンドボールが強い地域であり、力を入れている競技ですが、中体連の競技から外されることになりました。

このような背景の中、本校のハンドボール部の扱いをどうしたらよいか、中学生が地域の中で部活動を行うことになって、高校の部活動としてはどうしたらよいか。高校の内部だけではなく、地域や中学校との関係を意識して取り組む必要があるのではないかということを考えていかなければならないと思います。

人口減少が進行する中で、今までの学校教育や社会教育に対する考え方から少し変えて、変化にどう対応していくかということを考えていく必要性が現在、問われていると考えております。

以上です。

西澤委員

私は函館市文化団体協議会に所属しており、協議会には全32団体が加盟しております。

私が所属している「ぶんだんフレンズ」という団体は、個人で活動している方が集まり、発表や展示の場を設けております。

函館市文化団体協議会は今年創立60周年を迎え、11月21日に国際ホテルで記念式典を行うほか、様々な記念事業を予定しております。

函館市文化団体協議会の長い歴史の中で、多い時では60以上の団体が所属していたのですが、現在は約半数近くまで減少したことに加え、高齢化も重なり、若年層と高齢者層の活動の違いなどがありながらも、皆で協力しあいながら、会を盛り上げようと努力しているところです。

また、教育委員会が行っているアウトリーチ事業の運営なども携わっており、学校では学ぶことができない音楽や芸術などの専門家が各学校に出向き、授業を行っており、生徒たちは楽しんで授業を受けていると聞いております。

このほか、様々な展示や体験会などを通じて、子どもたちや市民の方に文化の持つ力を知ってもらうなど、各種文化活動に取り組むことにより、今後も函館市文化団体協議会の発展と市民文化活動の向上に努めてまいりたいと考えております。以上です。

鈴木委員

函館市スポーツ協会には様々な団体があり、私は函館市柔道連盟に所属しており、スポーツ推進委員にも就任しており、先日行われた函館マラソン大会や10月に予定されているコミュニティランニングなどの手伝いも行っております。

その他、総合型地域スポーツクラブの“Bay Walk Community はこだて”という団体にも所属しており、ボッチャ・モルック、カヤック、歩くスキーに参加しておりますので、ぜひ興味があれば、皆さんも参加してください。以上です。

佐々木幸夏  
委員

私は今年の3月まで市内で19年間保育教諭として幼児教育の分野に携わってきました。

私は10年ほど前にシングルマザーとなり、現在高校1年生になった息子を育てながら仕事をしてきた中で、函館市の様々な制度や施設等に対し、「必ずもっとよくなるのに」、「現状のままだと勿体ない」と感じる事が多々あり、一般市民の私にもできることはないかと考え、社会教育委員として、この場に立つことにしました。

私が今まで幼児教育の中で取り組んできたことや感じてきたことを簡単にお話しいたします。

保育園と地域が連携を図り、行事に参加したり、公共交通機関や公共施設を利用し、様々な仕事をしている方々と直接触れ合う機会が多くある中で、日ごろから様々な約束を守る大切さを子どもたちには繰り返し教えているところで、子どもたちは出会った人に自分から元気に挨拶したり、静かに落ち着いて並ぶなど、家庭とは違う姿で社会に馴染もうとします。

大人にとっては当たり前と思う行動かもしれませんが、この行動は生活習慣や人との関わり方、食事のマナーなど全てにおいて保育者が家庭と密に連携を図って関わっていくことで身に付いていくものです。

しかし、保育士として働き始めてから現在にいたるまで、年々保護者と子どもの質が低下していると強く感じていました。

大きな要因の一つとして、ゲーム機・タブレット端末・携帯電話の普及が考えられます。3～4歳でゲームに依存し、5～6歳で携帯を持ち、友達とSNSや電話でのやりとりを楽しむような場面や、保護者が携帯電話を使用しながら送迎をする姿が多くみられるようになり、当たり前のことがなかなか身に付かない現状になっているのではないかと思います。

現在、保育士の業務内容の一つに保護者支援も含まれ、子どもを援助・支援するよりも大変さを感じる事が多くありました。

子どもだけではなく、その家族にもしっかりと寄り添い、共に成長していけるよう導く幼児教育は社会教育の第一歩だと考えます。

また、保育士としての業務内容のなかに、実習生の指導も含まれ

ており、保育園には保育士を目指す専門学生・短大生以外にも看護学生や中学生、高校生も見学実習などで訪れていました。

保育士不足が何年も前から問題となっている今、私は実習生に子どもへの関わり方はもちろん、この仕事の魅力をしっかりと伝え、一人でも多くの実習生が保育士を目指してもらえるように努めてまいりました。

私は、「人と地域」、「地域と社会」を身近に感じられるように繋ぎ、函館市民の多くの方が協力し合って、より生活しやすく魅力あふれる街にしたいと考えております。以上です。

#### 中川委員

私がこれまで社会教育に携わってきたものの1つ目がPTAの役員です。学校との関わりを通じて、子どもの教育現場を知ることができました。中学校や高校では委員代表を務め、たくさんの方々とともに教育に携わりましたが、このことは私にとってとても大きな財産となりました。

特に、高校では全国高等学校PTA総会・分科会に参加することができ、全国規模で見た場合、地域差がとても大きいことに衝撃を受け、考えさせられたとともにとても勉強になりました。

他にも渡島総合振興局のサポートのもと「縄文 DOHNAN プロジェクト」という民間団体で活動し、歴史・財産を後世に残し伝えていこうと、仕事の合間を縫いながら、会員同士協力し、イベント等を通じ、周知活動にあたってきました。

活動を継続、拡大するにあたって、地域や市といった大きな力が必要であると実感することが多く、重要な課題だと認識しております。

今回、社会教育委員に就任いたしましたので、委員として少しでも活動の前進に寄与していきたいと考えております。以上です。

#### 白井委員

北海道新聞函館支社の報道部長をしております白井と申します。

社会教育法の定義でいうところの活動とは密接には関連しないかもしれませんが、北海道新聞函館支社で実施している取り組みについて、ご報告させていただきます。

今年6月から函館版での新しい連載として函館地方气象台のご協力をいただき「防災教えて气象台」というシリーズを月1回、气象台の専門職員の方に寄稿いただいております。

自然災害は大雨や噴火など多岐なものが想定されますが、これらから命の安全を守る方法を主眼とした連載となっております。

学校教育という場に留まらず、広く地域で生活する方すべてに必要な情報を提供したいとの思いから、命を守る大切さを伝える取り組みをしております。

8月は火山の防災に関する取り組みの強化月間となっており、火山災害から身を守るために必要なことを、小・中学生から高齢者ま

でわかりやすい原稿になるように努めながら紹介するものです。

また、かねてから函館版では「みなみ風」という地域情報誌を発刊しており、自宅でできる体操や体の動かし方といった解説をしています。

高齢化社会が進む現代、健康寿命を長く伸ばしていくことが重要視されるとともに、社会的な大きな取り組みが求められています。

中でも、健康寿命のためには歩行機能を含めた筋力の維持が大切であり、その方法を考える際に、お金をかけずにできる方法として、自宅で一人でできる体操などを紹介しております。

函館市においても様々なスポーツあるいは体の動かし方に対する社会教育活動は行われていると思いますが、人間が健康に生きていくための基盤として、体を動かす機能の維持はとても大切なものとなるので、こういった分野にも力を入れていただきたいと思います。

私は今年の4月に函館に転勤してきましたが、道内の他地域と比較して、函館アリーナは体を動かすことを支援する取り組みを行っており素晴らしいなと思いました。

市民の方はあまり特別なことだと感じていないかもしれませんが、函館アリーナでは1回400円、高齢者だと1回200円で屋内でランニングができるほか、専用の筋トレマシーンが揃い、指導の専門家が常駐しているトレーニングジムがあるなど、設備が整った施設であると、いたく感心いたしました。

現在、このような施設は1カ所のみですが、廉価で体を動かすことができるような施設を徐々に増やしていくことができればいいなと思っておりますので、報道を通じてお力添えしたいと考えております。以上です。

佐藤委員

函館法人会女性部会では、小学生を対象に“税に関する絵はがきコンクール”という企画を毎年実施しています。この企画では集めた絵はがきを五稜郭タワーや市役所などに展示しております。

また、「租税教室」を小学校に出向いて実施しており、税金の仕組みや流れなどを小さい頃から子どもたちに理解してもらう活動を行っております。

個人的なことになりますが、私の職場は函館朝市内にあり、朝市では「おでかけリハビリ」という活動を行っており、函館シニア大学や食に関する指導、脳を刺激する運動などを行っており、シニアの皆さんが楽しく活動しているということをお知らせします。

以上です。

小泉委員

函館市PTA連合会から推薦を受け、委員に就任しました小泉です。

現在、私の子どもが市内の中学校に在学中ということもあり、地域の会議にも参加しておりますが、会議の中で度々、北海道大学水

産学部の学生サークルが実施している放課後学習支援が話題となっていることを思い出したのでお話しいたします。

このサークルは、会員の皆さんが細く長く続けていきたいという意思で活動しているサークルで、人数を増やすことや、新しい取り組みをどんどん行うよりも、今まで関わってきた子どもたちが必要としてくれた学習支援やちょっとした会話などの活動を大切に、細く長く活動されているという紹介を何度も聞いておりました。

代表の方が何度も代替わりする変遷のなかで、時折、活動に新しいものを取り入れたいとの話も出て、地域の町内会や小中学校の先生方が意見やアドバイスなどをする姿を会議の中で見聞きする中で、とてもあたたかい活動だなと思いました。

私は子どもが利用させてもらう保護者の立場で見守り続けていましたが、そのサークルの活動の雰囲気や活動方針から、積極的に活動を大きくし、盛り上げていこうという内容については、長く続かずに、今まで通りの活動に戻るとこのを見てきました。

しかし、その活動は少ない参加者ではありましたが、確実に必要とされる活動だったため、地域の方々も「無理せずに今までの活動を大切にしよう」というようなやりとりがあり、地域や小学校中学校としても、大学生の力を借りてもっと協力してほしいと思う気持ちもありつつも、既存のサークルさんに活動の拡大を強いるのは難しいということを考えておりました。

先ほど、本日の会議の研修会参加報告においてグループワークの報告を聞き、子どもたちとの関わりを求めている大学生もいることや、その能力を持つ学生も多いのだろうなということとを今回、再確認できましたので、既存のサークルさんには繋ぎ役をお願いするかたちで、新しい学生には自身のやりたいこと、得意としている活動や子どもたちの居場所づくりなど、小さな取り組みでも子どもたちの選択肢を少しでも増やすという点を重視して、私もその活動に少しお手伝いしたいと思いました。

自分が勉強するだけでなく、情報提供もできるような形で会議に参加できればと思います。以上です。

佐々木香委員

函館市女性会議は女性の地位向上と男女共同参画社会を推進し、函館市のまちづくりに協力することを目的として活動する設立39年目の団体です。昨年の活動状況については資料を机上配付させていただきましたので、後ほどご覧いただければと思います。

函館市女性会議ではこれまでも様々な活動を行っておりますが、毎年一番の大きな行事として「はこだて・女性大会」があり、特に力を入れて取り組んでいます。今回は10月14日に開催予定ですが、中央図書館で『記憶2』という少年院で過ごす少年たちのドキュメンタリー映画の上映会と、NPO法人スマイルリングを主宰されている堀田さんを帯広からお招きしてトークショーを行い、男

の子の居場所づくりについても皆で考えてみようということを目的に実施する予定でありますので、多くの方に興味を持っていただきたいと思っております。

また、9月28日には、はこだて国際科学祭ポストイベントとしてははこだて防災マルシェを地域交流まちづくりセンターで開催する予定です。今年が目玉としましては初めて「炊き出し体験」をします。もし函館で災害が起きた場合に、私の理想とする避難所としては、そこに居る女性陣が毎食炊き出しをさせられるのではなく、函館には大勢のプロのシェフがいらっしゃいますので、そういったシェフにも炊き出しを手伝っていただきたいという思いを、今回初めて実現することが出来ます。熊猫社中洋食キッチン Sato の佐藤シェフと大妻高校の北出先生にご協力いただき、来場者には無料で提供させていただくほか、NPO法人日本トイレ研究所の加藤篤さんやアウトドア防災ガイドのあんどうりすさんの講演も予定しておりますので、ぜひ、地域交流まちづくりセンターへ足をお運びいただければと思います。

また、その関連事業として、避難所運営体験も3年前から市内の学校で開催させていただいております。今年も大原学園で2回開催しておりますし、函館西高校でも1日防災教室として230名の生徒を対象に実施いたします。今回は避難所運営体験を実際に作った青森市の一般社団法人男女共同参画地域みらいねっとさんに来ていただく予定です。こちらも新聞等で報道されると思いますが、皆様にもぜひ見ていただきたいと思っております。

さらに、12月1日には函館市役所1階の市民ホールにて HAKODATE COLLECTION の開催を予定しており、今年はクリプトン・フューチャー・メディアさんのご協力で雪ミクのキャラクターを使用させていただけることになりました。当日は着ぐるみも来る予定となっておりますし、これからモデルの募集とともに、市内の子どもたちや道内にお住まいの障がいをお持ちの方を対象として“私の雪ミク似顔絵コンテスト”の募集も行いますので、皆様にもご興味を持っていただけたらと思います。

それと、3年前から実施している“はこだて心笑温泉”では、女性のガン患者の方が貸し切りで温泉を楽しめる場を毎月第3水曜日に笑函館屋さんの協力で開催しております。毎月10～15名くらいの女性のがん患者の方が集まり、ゆったり温泉を楽しみ、おいしいランチを皆で食べ、ボランティアによるマッサージやヨガ、美顔器体験などをしてもらい、おしゃべりに花を咲かせ、自分たちが辛かった事などを、ピアサポートの形で話し合っていたり、情報交換していただくような場を提供しております。

昨年9月から、毎月1回あいよるでここみカフェを始めました。これは私たちの所属団体のひとつである一般社団法人JOYの方に、家で満足にご飯を食べることができないという問題についての

相談が市内に限らず数多く寄せられていることから、社会福祉協議会に相談して、年齢制限なく誰でも無料でご飯をおなかいっぱい食べられる場を作ろうということで取り組んでおります。

1回目を開催した際に、参加された一人暮らしの高齢女性が「普段は家で、スーパーで買ってきたお惣菜を皿にも開けずにパックのふたを開けてテレビを相手に冷たいご飯を食べているけれど、話し声の聞こえる環境で温かいご飯を食べることができてとても幸せです」という感想をいただけたことが、今でも忘れられない思い出となっております。

さらに、こちらについては函館カールレイモンさんにも食材を提供していただいておりますが、きっかけとしては「函館に生まれ育ちながら、カールレイモンを一度も食べたことがないという子どもたちにぜひ食べさせたい」という思いを工場に伝えたところ、ちょうど社員からも色々な社会情勢を鑑みて、食材提供を始めてはどうかという声が上がっていたところだったそうで、このタイミングでご協力いただく運びとなり、毎月ハムなど様々な食材をいただいて、惜しみなく子どもたちにたくさん食べていただいております。次は8月16日に青年センターで開催しますが、夏休みなどの長期休暇中のお昼ご飯問題は非常にシビアで、母子家庭のお母さんが子どものために自分は一食減らして、自分の子にお昼を食べさせているという話もよく耳にしておりますので、今回初めて平日に開催し、夏休みの子どもたちのほか、どなたでも来て食べていただけますので、ぜひ足を運んでいただければと思います。

私からは以上です。

池田委員長

以上で各委員からの発表が終了いたしました。意見や質問等がございますでしょうか。

中川委員

白井委員から、函館アリーナの話がありましたが、コロナ禍以降休止している保健所の健康増進センターは再開しないのでしょうか。

土生生涯学習  
部長

保健福祉部が所管している施設のため、教育委員会から具体的にお答えすることはできません。保健福祉部に内容を確認したのち、個別に回答させていただきます。

池田委員長

外崎副委員長に質問ですが、SDGsの絵本を紹介する冊子は配布していますか。

外崎副委員長

配布の予定はないので、インスタグラムを見ていただけたらと思います。

池田委員長	<p>中川委員の話の中にあつたように、団体の活動を行う中で行政の力を借りたい場合はどこで相談したらよいのですか。</p>
葛西生涯学習文化課主査	<p>社会教育に関する内容については、社会教育主事の資格をもった者が教育委員会生涯学習部生涯学習文化課に配属されておりますので、こちらまでご相談ください。</p>
池田委員長	<p>ほかに皆さま、何かございますか。 ないようですので、以上でその他（1）は終了といたします。 予定していた内容は以上でございますが、事務局から他に何かございますか。</p>
葛西生涯学習文化課主査	<p>本日配布いたしましたチラシについて紹介いたします。 「社会学級講演会」についてですが、社会学級では学びを深めるため、そして市民の方に社会学級への参加を促すために、年に1回社会学級講演会を開催しており、今年はNHK函館「ほっとニュース函館」気象情報に出演しておられます気象予報士・防災士の丸山将 氏をお迎えし「お天気から見える函館の特徴・良さについて」講演をいただくことになりました。 お時間が許します場合には、委員の皆様にもご参加をいただき、社会学級活動の様子をご覧いただければと思っております。 ほかにも、博物館の企画展のチラシを配布しております。併せてご覧いただければと思います。以上です。</p>
池田委員長	<p>ほかに皆さま、何かございますか。 なければ、以上で令和6年度(2024年度)第1回函館市社会教育委員の会議を終了いたします。</p>

以上、令和6年度(2024年度)第1回函館市社会教育委員の会議の会議録とする。

委員長 池田 孝道